指静脈認証を適用したフィジカルセキュリティ

社会インフラのセキュリティ強化に欠かせないのが、工場・プラント・重要施設などへの入退室やアクセス権限などで、 確実な本人認証を実現するフィジカルセキュリティです。日立は社会インフラにおけるセキュリティ強化に向け、 独自の「指静脈認証」を適用したフィジカルセキュリティを進化させ、柔軟かつ強固な本人認証基盤を提供します。

国内外で普及が進む 指静脈認証

企業や組織を狙うサイバー攻撃に 対処するには、サイバー空間のセキュ リティ確保だけでなく、物理空間を対象 としたフィジカルセキュリティへの備えが 必要です。日本では国際的なスポーツ イベントなどに備え、社会の重要インフラ である鉄道・空港・スタジアムなどへの サイバー攻撃や、制限エリアへの不正 侵入などを阻止するニーズが高まって おり、より包括的で多層的なセキュリティ 対策が求められています。

一般企業でも、部外者の侵入を防ぐ 入退室管理やPCログイン、重要情報 へのアクセス権限などで、厳格な本人 認証と利便性の両立に向け、紛失・ 盗難・使い回しのおそれがあるIDカード やID/パスワード認証に代わり、生体 認証が普及しつつあります。

そのなかでも日立が開発した「指静脈認証」技術は、表面からは認識できない指の静脈パターンを使用するため、偽造が極めて困難なこと、すばやく高精度な照合が行えることなどから、さまざまなフィジカルセキュリティや銀行ATMへの適用などが拡大し、グローバルでも豊富な導入実績を持っています。

PBIが実現する 「手ぶら取引」

これからは出入国審査の自動化ゲートや、金融決済サービスといった用途でも、生体認証のさらなる広がりが期待されています。そこで、生体認証とPKI*1(公開鍵認証基盤)の仕組みを組み合わせた日立独自の認証基盤技術であるPBI*2(公開型生体認証基盤)を開発しました。生体情報そのものから秘密鍵を生成し、一方向性変換*3で公開鍵を生成するため、ICカードや暗証番号を使うことなくPKIを実現します。つまり「忘れない・なくさない・持たない」認証やデジタル署名が可能になるということです。

PBIでは初期登録した生体情報を クラウド上の「共通認証プラットフォーム」 に配置することで、複数サービスでの 横断的な利用を想定しています。この ため生体認証の普及を阻害してきた 登録の煩雑さも軽減できます。

日立は今後、さまざまなフィジカルセキュリティシステムや金融決済/ヘルスケア/行政サービスなどとPBIとの連携を推進することで、より安全・安心・便利な認証や「手ぶら取引」が実現できる世界をめざしていきます。

なおPBIは、すでに国内の金融機関での導入が開始されており、印鑑レス、ペーパーレス、およびキャッシュカードレスが推進されています。

- %1 Public Key Infrastructure
- *2 Public Biometrics Infrastructure
- ※3 順方向の変換は容易に計算可能だが、逆方向の 変換は計算困難である変換関数



日立指静脈認証装置H-1

ウォークスルー型 指静脈認証

指静脈認証によるフィジカルセキュリティ強化の一環として、多くの人が集まる大型施設のセキュリティゲート向けに、歩きながら指をかざすだけで正確

な本人確認ができるウォークスルー型 指静脈認証技術を開発しました。オフィスビルの入退室やイベント会場な ど、これまで困難だった高精度かつ高速なスループットを要求されるゲートへ の指静脈認証の適用が可能となります。日立は、社内実証の結果を踏まえ、 実用化に向けたさらなる取り組みを進めていきます。 精度に指静脈パターンを読み取れる画 像解析・認証技術を開発しました。

具体的には、スマートフォンのカメラで撮影した複数の指のカラー画像から、指の色と形状に基づいて各指を検出。色情報から各指の静脈パターンを安定的に抽出するとともに、登録データから複数の指の静脈パターンを組み合わせることで認証精度を高めます。こ

れにより、変化しやすい皮膚表面のシワの情報と区別して指静脈パターンを安定的に抽出できるようになりました。

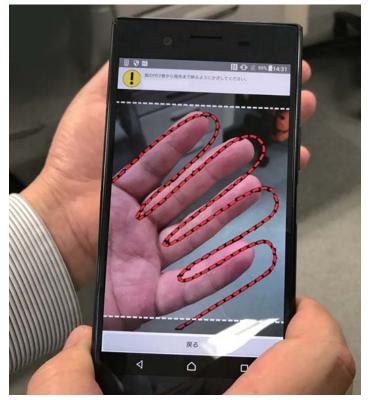
日立は今後、この技術とPBIの連携によりセキュリティと利便性を両立するスマートフォン向けの指静脈インターネットバンキングシステムなどへの導入をめざしています。



ウォークスルー型指静脈認証装置プロトタイプ

スマートフォン汎用カメラ 指静脈認証

セキュアで利便性の高い指静脈認証を、専用装置を使わずにオンラインサービスなどでも活用できるよう、日立は汎用的なスマートフォンのカメラでも高



汎用カメラ指静脈認証ソフトウェアのプロトタイプ

お問い合わせ先

(株)日立製作所 セキュリティ事業統括本部 http://www.hitachi.co.jp/security-inq/